

マールブルグ病



・ マールブルグ病はエボラ出血熱とともに、ウイルスによる発熱性出血熱を特徴とする感染症であり、アフリカのケニア、ジンバブエ、コンゴ民主共和国、アンゴラなどで発生しています。2008年には、オランダ、米国の旅行者が、ウガンダの洞窟に入って、帰国後にマールブルグ病を発症・死亡した例が報告されています。いずれも流行国の特定の地域で流行しますが、時に大きな流行となる場合があります

○発生地域：

サハラ以南のアフリカ。

○感染経路：

自然宿主はオオコウモリであることが明らかにされた。洞窟内ではコウモリから排泄されたウイルスが原因となり、経気道感染することがある。感染したサルなどの動物の血液、分泌物、排泄物、唾液などとの接触でも感染する可能性がある。マールブルグ病患者に接触して感染する場合は最も多い(院内感染など)。

○主な症状：

3～10日の潜伏期ののち、初期には発熱、頭痛、悪寒、下痢、筋肉痛など。その後、体表に斑状発疹、嘔吐、腹痛、下痢、出血傾向。

○感染予防：

流行地への旅行を控える。野生動物との接触は避ける。洞窟に入らない。

海外では、動物と距離をとろう。

Please Keep Your Distance

※もっと詳しく知りたい方は

厚生労働省「マールブルグ病に関する海外渡航者への注意喚起について」

→<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou25/index.html>